



# とびっくす No.30

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/> )



## 大型クラゲ 平成 19 年度の来遊状況

平成 19 年度も夏～晩秋にかけて大型クラゲ(エチゼンクラゲ)が島根県沿岸に多く来遊し、定置網や底びき網に入網して被害をもたらしました。本号では平成 19 年の大型クラゲ来遊状況についてまとめました。

### 量はそれほど多くないが遅くまで入網が続く

図1は水産技術センターが標本船調査によって調べた定置網のクラゲの入網量です。定置網での入網数は最大で 3500 個/日程度でした。大量にクラゲが来遊した平成 18 年(最大 1 万 5 千個/日以上入網)に比べれば少ないものの、平成 19 年は時期的に遅くなってからクラゲの数が増えました。

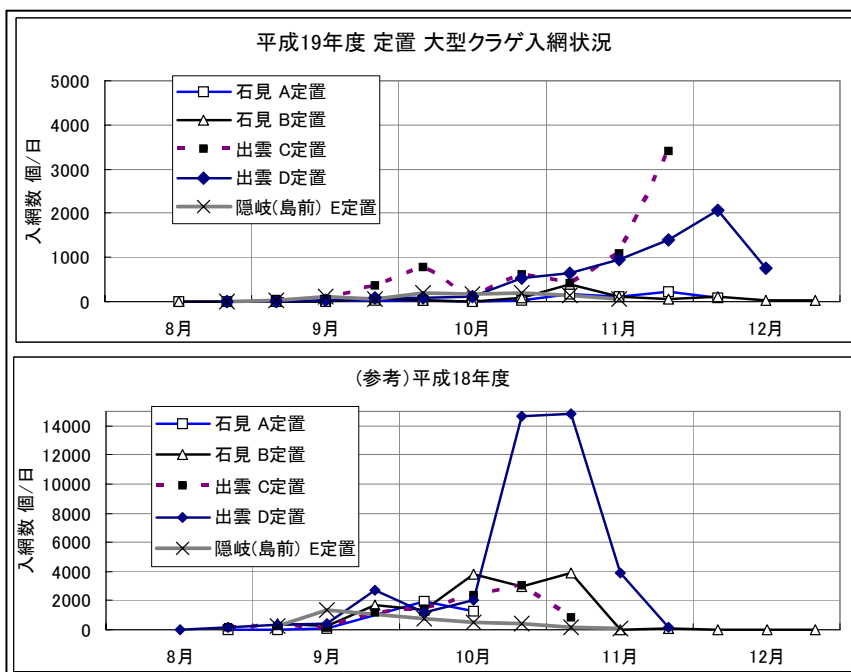


定置網に入網したエチゼンクラゲ

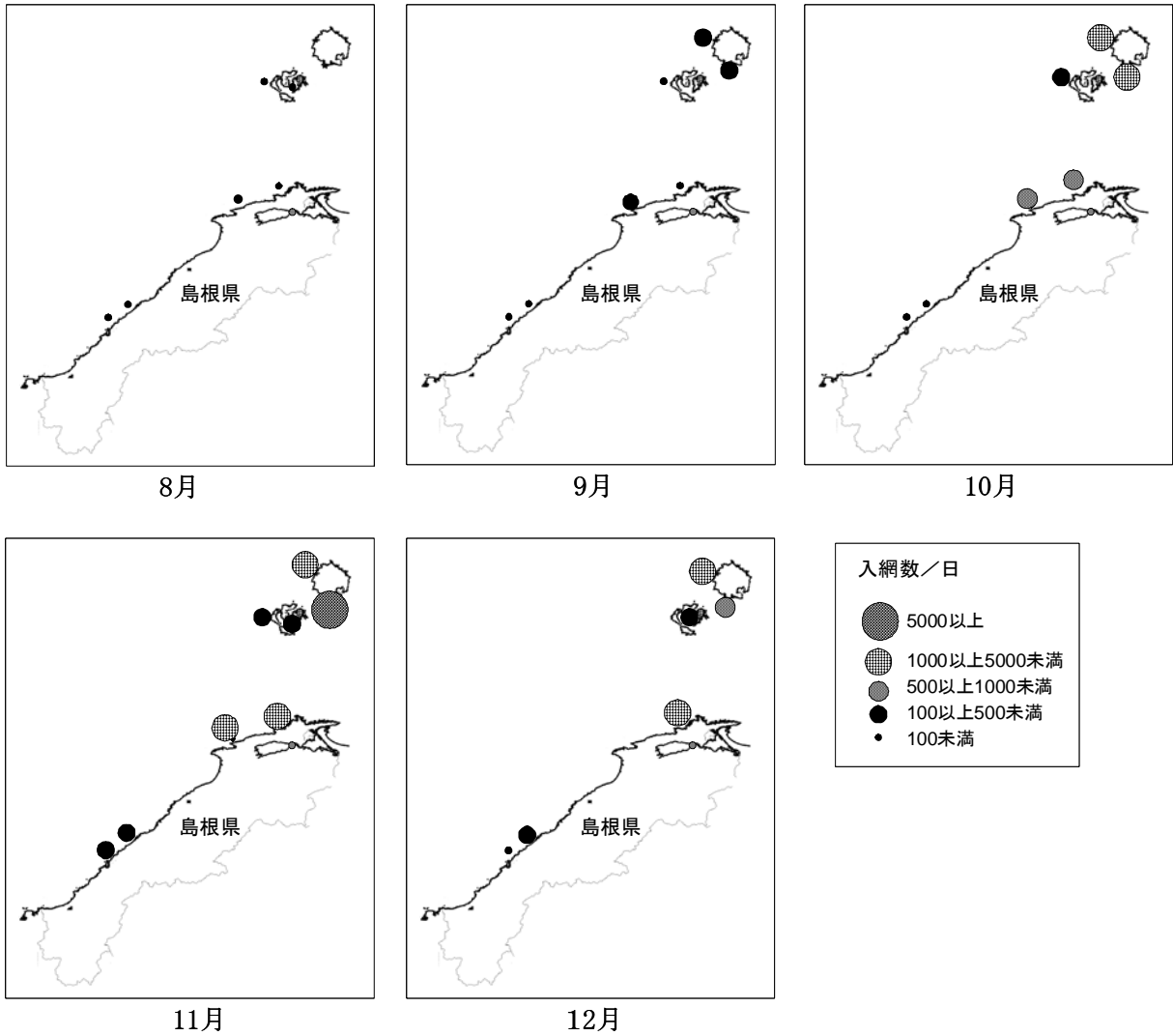
例年は 9 月頃から本格的なクラゲの入網が始まって 10～11 月に入網量が最大になり、12 月には入網はほとんどなくなります。ところが、平成 19 年は 10 月までは入網は少なかったのですが、その後 11 月～12 月に入網数が最大となりました。そして、出雲部や隠岐では年が明けて 1 月になっても 1 日数十～数百の入網が続きました。

### 出雲部と隠岐島後で多く入網

地区別に見ると、出雲部や隠岐島後地区では最大 1 日数千個単位の大量入網がありました。一方で、石見部や隠岐の島前地区では入網数が多い時でも 1 日数百個にとどまりました(次ページ図)。



平成 19 年度(上)と平成 18 年度(下)の定置網の大型クラゲ入網状況 (入網数は旬毎の平均値、グラフの縦軸最大値は平成 19 年度: 5000、平成 18 年度: 15000)

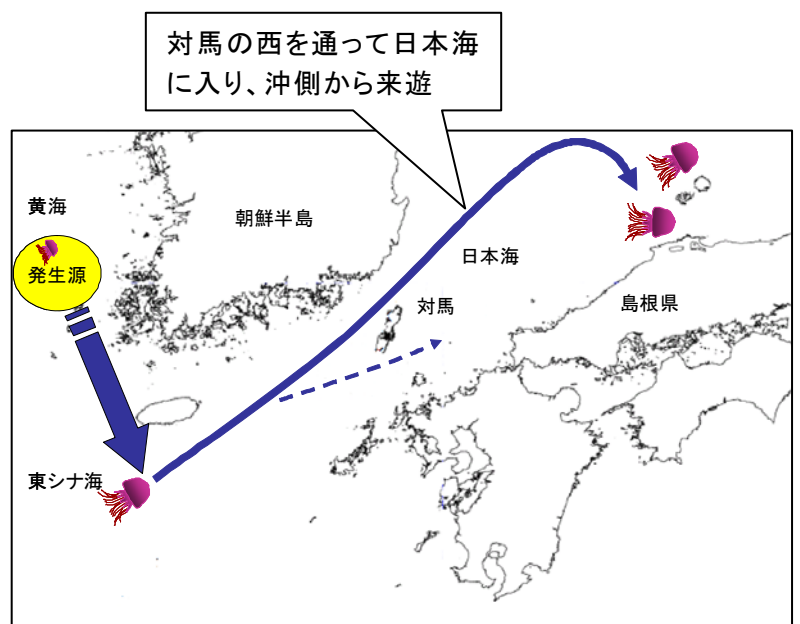


平成 19 年度の大型クラゲの定置網への入網状況

### 日本海の沖側を通過して来遊

石見部では入網が少なかったのに、隠岐や出雲部で多く入網があったのはなぜでしょうか？。理由としては下記のようなことが考えられます。

- (1) クラゲは東シナ海から日本海に入る際、対馬の西側を通る対馬暖流第二分枝流に乗り、日本海のかなり沖側を経由して流入した。その後沖から岸に向かう反流に乗り、隠岐から出雲部に多く来遊した。
- (2) さらに日本海に流入したクラゲは長期間沖合に滞留し、その後11月頃になって北西の季節風による吹送流で沿岸に吹き寄せられた。



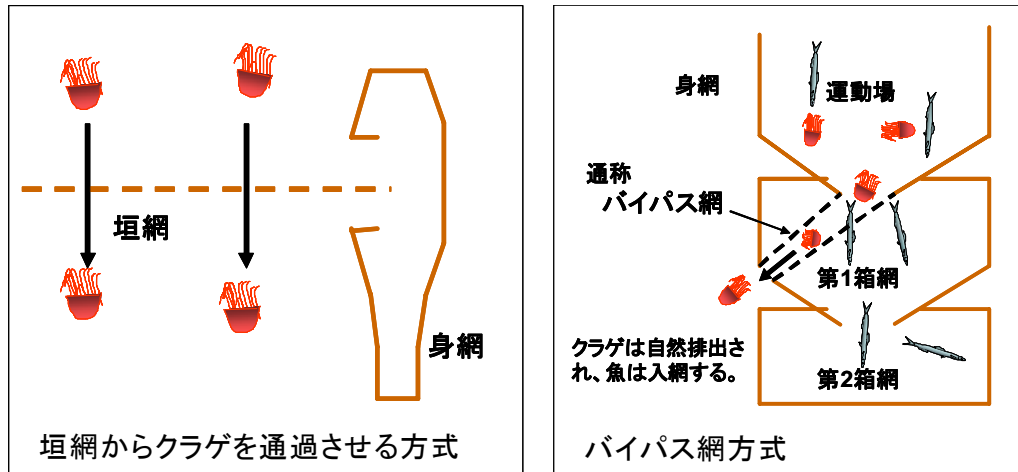
平成 19 年のエチゼンクラゲの推定来遊経路

## クラゲ対策漁具について

水産技術センターでは、大型クラゲによる被害を防ぐための漁具を開発しています。

### (1) 定置網

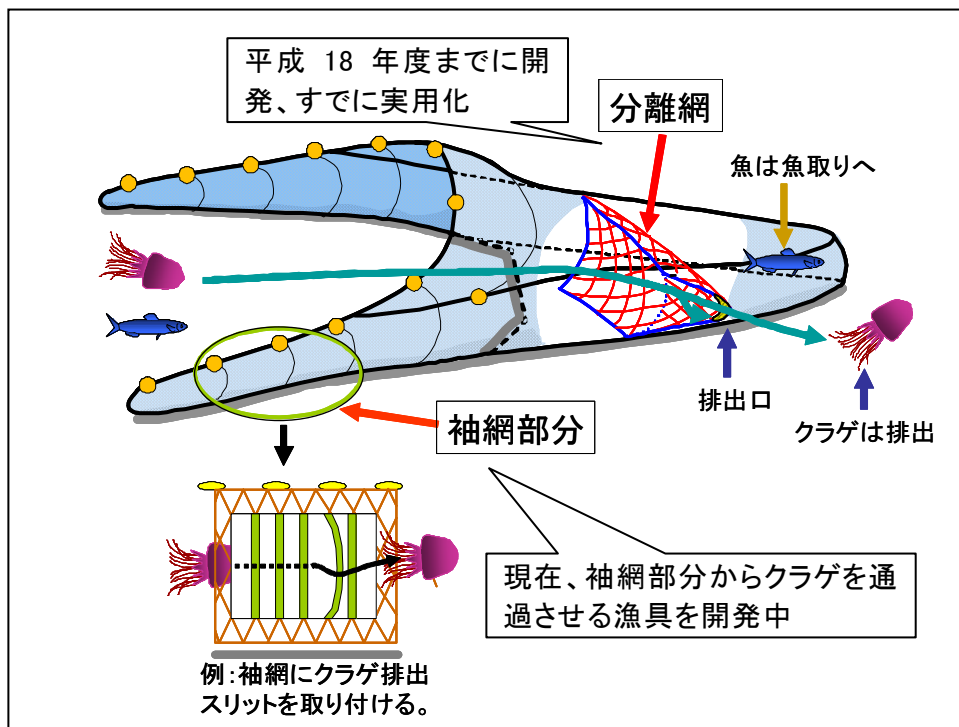
水産技術センターは JF しまね・真和漁業生産組合・鹿児島大学・ニチモウ(株)と協力し、垣網の一部を大目合化してここからクラゲを通過させて入網を防止する方法を開発しました。その他漁具メーカーによって、箱網に入ったクラゲを排出する方法(バイパス網方式)なども開発されており、導入が進んでいます。平成 19 年度はクラゲの被害がそれほどでもなかったため、クラゲ対策網を実際に設置した経営体は少数でしたが、効果があることは実証済みです。



定置網のクラゲ対策

### (2) 小型底びき網

水産技術センターでは JF しまね・島根県小型機船漁業協議会・鹿児島大学と協力して、曳網中にクラゲを分離して排出する漁具を開発し、多くの漁業者の方がこの方法を採用して操業しています。現在、より多数のクラゲ入網にも対応できるよう、袖網からクラゲを抜くタイプの漁具を開発中です。(下図)



小型底びき網のクラゲ対策

## 資料 エチゼンクラゲの基礎知識

◎**大きさ**： 大きなものは傘の直径が 1m以上、重量 200kg 以上になります。

◎**生態**： 中国や韓国の沿岸で発生し、成長しながら海流に乗って日本海を北上し、毎年夏～秋に本県沿岸に来遊します。表層から水深百数十mまでを遊泳しており、餌はプランクトンです。寿命は1年で日本海での繁殖は報告されていません。

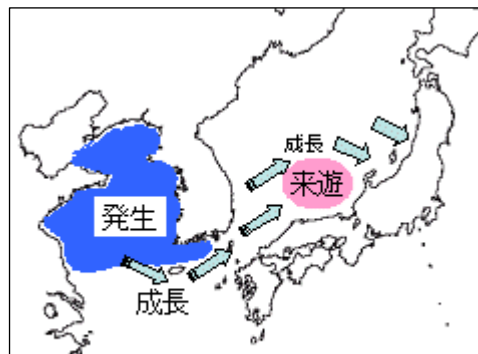
◎**大発生**： エチゼンクラゲは時折大発生して問題となります。これまでの大発生の記録は昭和 13 年前後・昭和 33 年・平成 7 年・平成 12 年・平成 14 年・平成 15 年そして平成 17 年・平成 18 年と最近 10 年で急に頻度が増えています。大発生が増えている原因としては、海水温の上昇、中国沿岸の富栄養化、餌が競合する魚類の減少などが挙げられていますが、まだはっきりしたことはわかっていません。



◎**漁業被害**： クラゲの被害は定置網、底びき網を始め刺網、まき網など広範囲に及んでいます。クラゲが網に入ることにより漁具の破損、操業効率の低下、操業海域の縮小、選別時間の増加、クラゲの触手による魚体の損傷(商品価値の低下)などの被害が生じます。

◎**クラゲ情報の収集と提供**： 島根県では標本船調査などにより各地のエチゼンクラゲの来遊情報を随時収集し、旬報の形でインターネット・FAX 等により漁業者に提供しています。

※島根県のクラゲ情報は水産技術センターホームページ(<http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/>)、全国のクラゲ情報は漁業情報サービスセンターホームページ(<http://www.jafic.or.jp/kurage/>)でそれぞれ見ることができます。



エチゼンクラゲの発生と来遊

## 「島根のさかな」ホームページ掲載について

平成 15 年に島根県水産試験場(当時)が出版した図書「島根のさかな」の内容をホームページに順次掲載します(月 1 回程度更新)。「島根のさかな」では、島根の魚介類や漁法について詳しく紹介してゆきます。島根県水産技術センターホームページをご覧ください。

・第 1 回の掲載は「島根の海」です。

<http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: [suigi@pref.shimane.lg.jp](mailto:suigi@pref.shimane.lg.jp)